

DENKI

きらきら vol.38

発行 一般社団法人
日本電気協会中部支部

第38号 Contents

支部ニュース	1
令和7年度支部事業計画	2
事業報告	3
特集 第7次エネルギー基本計画	4～5
講習会のご案内	6
中部近畿産業保安監督部からのお知らせ	7
ふるさと紀行 三重県桑名市	8

支部ニュース 第15回支部大会を開催

5月22日(木)、名古屋東急ホテルにおいて、第15回支部大会を開催し、143名が出席しました。あわせて、記念講演会を開催し、外交ジャーナリスト・作家の手嶋龍一氏に「トランプ再来で激変する国際政局～日米同盟の今後と台湾・ウクライナ危機～」と題して、お話しいただきました。

●支部大会議事

- (1) 2024年度事業報告および会計報告
- (2) 2025年度事業計画および収支予算
- (3) 運営委員の選出



挨拶する勝野会長



手嶋龍一氏

支部ニュース 2025エネルギー関係施設見学会のご案内

下記のとおり1泊2日で開催する予定です。

申込・詳細案内は弊協会ホームページ内「トピックス」をご確認ください。

実施日時 2025年10月23日(木) 9時～24日(金) 16時〔予定〕

見学先 佐久間ダム・発電所【電源開発株式会社】
佐久間周波数変換所【電源開発送変電ネットワーク株式会社】
(静岡県浜松市)
浜岡原子力発電所【中部電力株式会社】
(静岡県御前崎市)



協会ホームページ

<佐久間ダム・発電所>

佐久間ダムは、発電用として1953年から3年間かけて建設されたコンクリート重力式ダム。

佐久間発電所は、1956年に運転開始され、年間流量約50億m³の豊富な水量と133mという落差が生み出す電力は、1年間で約14億kWhとなり、水力発電所としては日本最大級。

<佐久間周波数変換所>

昭和40年に運転を開始した佐久間周波数変換所は、それまで東日本50Hz、西日本60Hzで分断されていた電力系統をつないだ最初の設備。27万5,000Vの交流を一度12万5,000Vの直流に変換、再び交流に戻すことで最大30万kWの電力を融通しています。2027年度の運用開始を目標とし、新佐久間周波数変換所30万kWを増強予定。

<浜岡原子力発電所>

中部電力が所有する唯一の原子力発電所。1号機から5号機まで5つの発電設備がありますが、1・2号機は2009年1月に運転終了。出力は3号機110万kW、4号機113.7万kW、5号機138万kW。現在3・4号機の運転再開を目指し、様々な安全性向上対策の取り組みを進めています。

令和7年度支部事業計画

事業指針「5C」(Chubu Connect Chance Change Cheer: 地域を繋ぎ、創造の場を作り、応援する)に基づき、4つの事業課題『4つのD』(Decarbonization・DX・Design・Development)に取り組むとともに、事業運営継続の基礎となる組織力・体制を強化してまいります。

そして、会員のみなさまのご協力のもと、電気関係業界のお役に立ち、社会課題の解決を通じ、社会の持続的な発展、電気の豊かな未来に貢献できるように事業を進めてまいります。

【基本方針】

令和元年度策定の事業指針「5C」にもとづき

— Chubu・Connect・Chance・Change・Cheer —

「中部地域、社会課題に目を向ける、電気と社会と会員を繋ぐ、場・機を作る、変化、創造する、電気社会と皆さまを応援する」

4つの事業課題『4つのD』に取り組む

— Decarbonization・DX・Design・Development —

- ・脱炭素化=カーボンニュートラルへの挑戦
- ・デジタル化の急速な進展への対応
- ・未来社会~電気が不可欠な社会への貢献
- ・将来の電気技術者確保のための育成

事業継続の基礎となる組織力・体制を強化する

- ・会員サービス向上の取組み
- ・事業基盤の強化

【事業課題への主な取組み】

1 表彰活動等を通じた電気安全の普及促進

- ・電気保安の確保に顕著な功績のあった個人や工場・事業場に対し、経産大臣等の表彰の推薦、委員長表彰を実施する。
- ・電気関連の最新法令の説明や労働安全衛生法に基づく特別教育等、電気保安のレベル向上に役立つ講習会やセミナーを開催する。
- ・当協会の審査や規約に基づく優良なキューピクル式受電設備の普及促進を図り、自家用受電設備の保安等に寄与する。

2 技術力向上に資する講習会の開催

- ・受講者ニーズや運営収支等を踏まえ、講習会の規模や内容、方法を見直し受講者の技術力向上と会員サービス向上を目指す。
- ・WEB講習会を実施し、受講者の受講機会(日程・時間)を創出する。

3 次世代層向け特別講座

- ・運営委員幹事会で賛同を得た会員企業を中心とし、中部4県の高校で特別講座を開催する。
- ・高校生以下も対象を広げ、ボーイスカウト活動を通じ、電気・エネルギーに関する啓発活動を行う。
- ・小学生のボーイスカウトを対象に、発電体験など、電気・エネルギーへの興味関心が湧く取り組みを行う。
- ・中学生・高校生のボーイスカウトが、電気技術に関する知識や技能を学び、これからのエネルギーのあり方や自分たちができる取り組みを考える機会を提供する。

4 会員サービス向上の取組み

- ・時宜に応じた開催テーマを設定し、テーマに沿う電力関連施設や、会員企業様の施設等を見学会候補として検討する。
- ・年4回発行する会報誌へは、業界が直面する脱炭素等の課題「4つのD」をテーマとした記事を掲載する。また、叙勲・褒章、功績者の紹介ならびに会員企業紹介の欄などによる会員相互のコミュニケーション強化を図る。

5 事業基盤の強化

- ・少人数の職場で業務が多岐に亘り属人化しやすい。このため、職員が計画的に担当業務のマニュアルの整備・見直しを行い、業務の標準化を図る。

6 受託講習の実施

- ・「第一種電気工事士定期講習」「認定電気工事従事者認定講習」の法定講習を実施。本部開催のオンライン講習会との連携も図る。

7 電気安全推進業務・省エネ推進業務

- ・安全意識の向上~対策実施に至るまで、あらゆる機会を捉え啓発活動を実施する。
- ・「電気安全中部委員会」「中部地方電気使用合理化委員会」「一般社団法人照明学会東海支部」業務を行う。安全については基本遵守に止まらず、防災面、意識面についても注力する。使用合理化については最新動向を取り入れる。

8 各種表彰・推薦

- ・「叙勲・褒章」「生涯功労者」「傘寿功労者」「永年従事功労者」「特別功績者」「優良一般電気施設」「エネルギー管理功績者・優良事業者等」等の推薦・表彰を実施する。

9 支部主催イベントの開催

- ・「電気記念日祝賀会(3月)」「支部大会(5月)」を開催し、各種功労者表彰や有識者講演会を行う。

ボーイスカウト向け電気技術講習会を開催

当協会では、電気保安人材および電気関連事業を支える有為な人材の将来的な確保を目指すことを目的とした、次世代層に向けた啓蒙・啓発活動に積極的に取り組んでいます。

このたび、6月14日、15日の両日、ボーイスカウトを対象に「電気技術講習会」をイーブル名古屋(名古屋市)で愛知県電気工事業工業組合青年部の協力を得て開催しました。

当講習会は、ボーイスカウトの進歩制度にある「電気章」「エネルギー章」の修得を目指すもので、当日は、中学2年生から高校3年生のボーイスカウト、ベンチャースカウト計48名が参加しました。

スカウトたちは、1日目に電気に関する基礎知識とし



て、オームの法則を使用した電圧、電流、抵抗の計算を行ったり、家庭にある電気製品の消費電力を求める方法など、少し専門に踏み込んだテーマを学び、また、テスターを使用した配線調査や延長コードの製作などの実習にも挑戦しました。

2日目は、世界のエネルギー事情や日本の現状を知り、火力発電や原子力発電など様々な発電方法を知ることで日々使っている電気の大切さを学びました。

電気技術に関する知識や技能を学び、そして現代を取り巻くエネルギー問題に目を向け、これからのエネルギーのあり方や自分たちができる取り組みを考えてもらう機会となりました。

概要 ボーイスカウト向け電気技術講習会『「電気章」・「エネルギー章」修得研修会』

1. 開催日時

令和7年6月14日(土) 9:00~16:10

令和7年6月15日(日) 9:00~14:45

2. 開催場所

イーブル名古屋

(名古屋市男女平等参画推進センター、名古屋市女性会館)
名古屋市中区大井町7番25号

3. 対象

中学2年生~高校3年生のボーイスカウト、ベンチャースカウト 48名

4. 講習会内容

- ・ 1日目(6月14日)は、電気の知識、技術の講習
- ・ 2日目(6月15日)は、エネルギーに関する知識の講習



特集

「第7次エネルギー基本計画」 ～DX、GXを見据えた新たな方向性～

1 概要

令和7年2月、「第7次エネルギー基本計画」が閣議決定されました。この計画は2040年にはDX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）の進展に伴い、電力需要は現状の20%増加に転じると見込まれており「S+3Eの原則」を基盤とし、再生可能エネルギーや原子力発電を最大限活用することで、エネルギー安定供給と脱炭素を両立させる方針が示されています。目標は、再生可能エネルギーを4～5割、火力を3～4割、原子力を2割程度とする電源構成としています。また、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、経済合理的な取り組みが求められています。ここではそのポイントについて解説します。

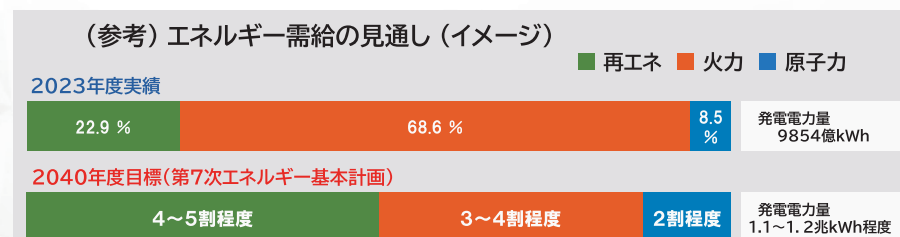
2 第6次エネルギー基本計画策定以降の状況変化

- 第6次エネルギー基本計画策定（2021年10月）以降、エネルギー情勢は以下のように大きく変化。こうした国内外の情勢変化を十分踏まえた上でエネルギー政策の検討を進めていく必要がある。
 - ・ロシアによるウクライナ侵略や中東情勢の緊迫化などの経済安全保障上の要請が高まる。
 - ・DXやGXの進展に伴う電力需要増加が見込まれる。
 - ・各国が2050年カーボンニュートラルに向けた野心的な目標を維持しつつも、多様かつ現実的なアプローチを拡大。
 - ・エネルギー安定供給や脱炭素化に向けたエネルギー構造転換を、経済成長につなげるための産業政策が強化されている。

3 2040年に向けた政策の方向性

① エネルギーミックス

- S+3Eの原則が維持され、安全性の確保を大前提に、エネルギー安定供給を第一として、経済効率性と環境適合性の向上に向けて最大限の取組みを進めていくことが重要としている。
- GXの方針を示す「GX2040ビジョン」とともに遂行することで、エネルギーと産業の高度化を進める。
- これまで人口減少や省エネルギーの進展により減少を見込んでいた電力需要は、DXやGXの進展に伴い増加する見通し。
- エネルギーミックスは、2040年度をターゲット。2050年カーボンニュートラルを目指す途上にあり、現時点で社会実装が進んでいない革新技術の普及を前提とする必要がある。
- 複数のシナリオを用いて検討した結果、電力需要は0.9兆～1.1兆kWh、総発電電力量（電力需要に送配電損失量と所内電力量を加味）は1.1兆～1.2兆kWhとされ、再生可能エネルギー4～5割、火力3～4割、原子力2割と設定されている。



② 再エネ

- 再エネの主力電源化に向けては、系統整備や調整力の確保に伴う社会全体での統合コストの最小化を図る。
- これまでの導入拡大はFIT（固定価格買取制度）などに支えられてきたが、電力市場への統合を図ることなどで社会コストを抑える。
- イノベーションの加速とサプライチェーンの構築を戦略的に進め「技術自給率」の向上を図ることも掲げ、軽量で柔軟性のあるペロブスカイト太陽電池の早期社会実装や、浮体式洋上風力発電の最適な海上施工方法の確立などに取り組む。
- 水力発電は開発リスク低減や適切な再投資・維持・管理を通じた活用の促進に向けて、長期脱炭素電源オークションを含む容量市場などを通じ電源投資を促進する。

③ 原子力

- 原子力は、2021年策定の第6次まであった「可能な限り依存度を低減する」という記載は削除。
- 再エネとともに「エネルギー安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源」と評価され、安全性の確保を大前提に「最大限活用」する方針が示された。
- これまでのGX基本方針では認められていなかった、廃炉を決定した原子力事業者が、事業者単位で保有する発電所の敷地内でのリプレースが可能となった。その他の開発についても今後の状況を踏まえて検討していくとしている。
- 事業者が継続的に原子力事業を運営するために必要な予見可能性確保へ、引き続き必要な対応についての検討を進めることも明記されている。
- サプライチェーンを維持する観点から重要になる具体的な開発・建設目標量の設定や、敷地制約のない、いわゆる新設は盛り込まれていない。

④ 火力

- 足元で電源構成の7割を占め、安定供給に大きく貢献。再エネに対する調整力、系統安定性を保つ慣性力・同期化力などとして重要な役割を担っている火力発電は、脱炭素へ向けたトランジション（移行期）の電源と位置付け、全体で安定供給に必要な発電容量を維持・確保しながら、非効率的な設備を中心に発電電力量を減らしていく。
- 具体的には、トランジションとしてのLNG火力設備の確保を燃料と併せて進めるとともに、水素・アンモニア、二酸化炭素回収・貯留・利用などを活用した脱炭素を、技術開発やコストなどを踏まえて時間軸や排出量にも留意し、事業者の予見可能性を確保しながら進める。加えて、非効率な石炭火力のフェードアウトを促進する。
- 高需要期の供給力として、発電設備、燃料サプライチェーンの維持などに留意しつつ、低稼働電源のkW維持に必要な制度的措置や、緊急時に備えた予備電源制度について、不断の検討を行う。

⑤ 電化

- 2050年カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、電源の脱炭素化に並び「電化」を掲げている。
- 特に熱利用においては、化石燃料の燃焼からヒートポンプ利用に転換することでCO₂排出量削減が望める。ヒートポンプは大気熱などを活用して省エネルギーで冷温熱をつくる機器で、蓄熱や系統運用の柔軟性を高めるデマンドレスポンスなどへの応用も可能。
- 電化や非化石転換を中心に、デマンドレスポンスの促進や、ヒートポンプやコージェネレーションなどによる熱供給の効率化を進める。

参考：令和7年電気協会報5月号「電事連だより」

2025年9月～

各種講習会(当支部主催)の開催予定

★各講習の受講募集は、概ね2カ月前にホームページにてご案内を開始いたします。

講習会名	日程(予定)	会場	募集定員
高圧・特別高圧電気取扱者に対する 安全衛生特別教育講習会	9月11日(木)～12日(金)	電気文化会館 (名古屋市内)	各回120名
	11月6日(木)～7日(金)		
	1月15日(木)～16日(金)		
低圧電気取扱者に対する 安全衛生特別教育講習会	10月9日(木)	東桜会館(第2) (名古屋市内)	42名
第一種電気工事士試験受験準備講習会 〈筆記試験受験準備講習会〉	9月6日(土)～7日(日)	トーエネック教育センター (名古屋市)	50名
第一種電気工事士試験受験準備講習会 〈技能試験受験準備講習会〉	11月8日(土)～9日(日)		40名
内線規程講習会	9月18日(木)	電気文化会館 (名古屋市内)	90名
内線規程講習会[WEB]	10月9日(木)～16日(木)	WEB	制限なし
電気関係法規講習会(名古屋会場)	10月15日(水)～16日(木)	東桜会館(第2) (名古屋市内)	58名
電気関係法規講習会(松本会場)	11月5日(水)～6日(木)	松本商工会議所 (松本市内)	40名
電気関係法規講習会[WEB]	12月3日(水)～10日(水)	WEB	制限なし
自家用電気工作物保安管理規程講習会	11月27日(木)	電気文化会館 (名古屋市内)	120名
IoT導入セミナー	12月5日(金)	東桜会館(第2) (名古屋市内)	40名
系統現象・保護協調講習会	12月12日(金)	電気文化会館 (名古屋市内)	90名
太陽光発電設備メンテナンス講習会	1月22日(木)	東桜会館(第2) (名古屋市内)	58名
太陽光発電設備メンテナンス講習会[WEB]	2月12日(木)～19日(木)	WEB	制限なし
電気保安セミナー	2月25日(水)	東桜会館(第2) (名古屋市内)	58名

電子書籍のご案内

電子化で効率化!

日本電気協会が発行する技術書籍を電子化・サブスクで提供

必要な技術規程類をタブレット・スマホ・PCにダウンロード!

★お手軽価格に! ★常に最新版を! ★現場で確認!

<ご利用に合った2つのプランからお選びください>

①『パッケージプラン』

各プラン 月額 550円(税込)

内線規程系 4タイトル

- ・内線規程
- ・内線規程Q&A
- ・低圧電路地絡保護指針
- ・低圧電路に使用する自動しゃ断器の必要なしゃ断容量

系統連系・高調波 2タイトル

- ・系統連系規程
- ・高調波抑制対策技術指針

需要設備高圧系 3タイトル

- ・高圧受電設備規程
- ・高圧受電設備規程Q&A
- ・自家用電気工作物保安管理規程

②『セレクトプラン』

5冊セット ~~7,780円~~(税込)/年

今だけ **6,600円**(R7.9.30まで)

プラス1冊ごと +1,320円(税込)/年

★5冊の組合せは自由★

よく見る5冊をセレクト

- ①内線規程
- ②高圧受電設備規程
- ③自家用電気工作物保安管理規程
- ④系統連系規程
- ⑤高調波抑制対策技術指針

(その他の書籍もございます)

◆ お問い合わせ、申込方法の確認はこちらまで ◆

(一社)日本電気協会 中部支部 担当 福井
denkikousyu@chubudenkikyokai.com
052-934-7215

経済産業省・中部近畿産業保安監督部からのお知らせ

自然災害に備えましょう！



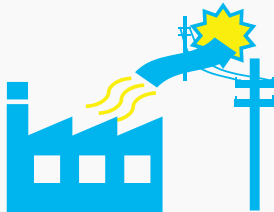
台風が来る前に大雨、暴風のほか落雷にも備え、今一度電気工作物や構内の点検をお願いします！

1.大雨や暴風により電気工作物が破損や飛散することがあります。

○電気工作物の破損・飛散した事故の例

- ▶ 暴風雨により気中開閉器に雨水が浸入したことにより地絡
- ▶ 暴風により構内の電線に揺れた樹木が接触して断線
- ▶ 暴風により太陽電池パネルの固定金具が外れて飛散

※電気工作物に破損等がないか、電線への樹木接触がないか入念な点検を行い、必要があれば、修理や交換、樹木の剪定などの対策をお願いします。



2.強風で周辺の物が飛ばされることにより、電柱や電線が損壊し、広範囲に亘り停電することがあります。

○台風時の停電事故の例

- ▶ 事業場の屋根板や看板が飛来し電線を切断。
- ▶ 建物の屋根板や農地のビニールシートが電線に引っかかる。

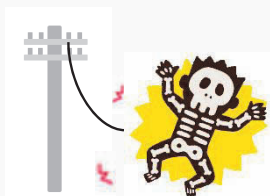
※老朽化した看板は撤去又は補強したり、不要なビニールやシートは飛ばされないように屋内に取り込むなどの対策をお願いします。

3.落雷により機器が破損し、停電することがあります。

○落雷による事故の例

- ▶ 落雷により気中開閉器が破損したことにより地絡
- ▶ 架空電線から異常な高電圧が侵入して電気工作物が破損

※避雷器や避雷針の入念な点検を行い、未設置であれば設置の検討をお願いします。



4.切れた電線や倒れた電柱はとても危険です。見つけた場合には決して近寄らず、下記までご一報ください。

電線・電柱の場合：最寄りの**中部電力**の営業所へ

構内電気設備の場合：**電気主任技術者**又は**保守委託先等**へ

【感電注意】停電をせずに電気工作物の点検・修理等を行うと感電の恐れがあります。必ず電気主任技術者等が立ち会い、安全対策を行ったうえで実施して下さい。

電気事故が発生した場合には、**電気主任技術者等**を通じて**当部まで**ご連絡ください。



経済産業省 中部近畿産業保安監督部 電力安全課
(TEL) 052-951-2817
※休日や夜間はFAXをお願いします(FAX) 052-951-9802



桑名市内を流れる木曾三川

三重県桑名市

六華苑 (ろっかえん)

六華苑は、桑名の山林王と呼ばれた実業家・二代諸戸清六の新居として1913年に完成した、明治・大正期を代表する貴重な文化財です。洋館、和館や蔵、池泉回遊式庭園などがあり、総面積は18,000㎡にも及びます。洋館は鹿鳴館の設計で有名な英国人建築家ジョサイア・コンドル氏が設計。桑名市が1991年に土地を取得し、1993年に一般公開を開始しました。洋館および和館は1997年に国の重要文化財に、他の6棟が三重県の有形文化財に指定。また、庭園は一部を除き2001年に国の名勝に指定されています。



七里の渡し (しちりのわたし) 跡



桑名宿（桑名市）は当時、東海道五十三次42番目の宿場町として大賑わいを見せていました。「七里の渡し」は、宮宿（名古屋市中熱田区）と桑名宿を結ぶ東海道唯一の海路で、その距離が七里（27.5km）であったことからそう名付けられました。桑名市にある大鳥居は、これより伊勢路に入ることから「伊勢国一の鳥居」と称されました。

蛤 (はまぐり)

豊富な水を湛えた木曾三川は伊勢湾へと注がれ、その合流地点の河口周辺で特産品の蛤は水揚げされます。桑名の蛤は汽水域で育つためとても美味。人が蛤を食してきた歴史は長く、痕跡から紀元前4000年の縄文時代前期からとわかっています。桑名の蛤は殻が大きく、形・色も美しいため「貝合わせ」「膏薬（こうやく）の容器」などに利用され、桑名産が最も適していると賞賛されたそうです。



安永餅 (やすながもち)



安永餅は員弁川に架かる町屋橋の北側付近にある安永（地名）の街道沿いの茶屋街で江戸時代から売っていたのが発祥とされる餅です。桑名宿を往来する旅人などに人気を博し、茶菓子、土産物として広く親しまれました。

寛政の改革を行った松平定信が非常食として安永餅を考案したという伝承もあります。細長い形になっているのは、米つぶをイメージしたという説や、旅人が懐に入れやすいようにまたは餅屋が短時間で焼きやすいようにしたという説もあります。

<お問い合わせ先>

「桑名市物産観光案内所」

三重県桑名市有楽町59

TEL：0594-21-5416

「六華苑」

三重県桑名市大字桑名663-5

TEL：0594-24-4466

写真提供 ～桑名市・桑名市観光協会～